

大河原 ロータリークラブ会報

会長：奥林 潔 副会長：岡崎 隆
幹事：本木 拓也 副幹事：高橋 大志

広報・IOC 委員長：佐藤 克美
副委員長：山家 正信
委員：鈴木 孝典



2021~2022年度
国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために
**SERVE TO
CHANGE LIVES**

2021~2022年度IR会長 シェカール・メータ
国際ロータリー第2520地区 鈴木 俊一
2021~2022年度ガバナー

例会日：毎週木曜日 12時30分 例会場：和洋亭ぶざん 柴田郡大河原町字新南 25-18 TEL 0224-51-1113

2021年9月16日(木) 文書例会

会長あいさつ

会長 奥林 潔



私は、当初、大河原町での新型コロナウイルスの感染者数の少なさに、検査していないからでないかと疑っていました。しかし、最近公表される大河原町での感染者の人数の多さに驚きです。

今月13日の発表を見ると、①柴田町 190人、②大河原町 166人、③角田市 142人、④白石市 71人、⑤村田町 54人となっています。

人流が新型コロナの流行に大きく寄与しているのではないのでしょうか。私は、2回目のワクチン接種を受け終えています。最近、コロナ菌が浮遊しているのではないと思われる場所では、できるだけ息を止めて、自己防衛しています。

今月1日、鈴木俊一ガバナーの公式訪問による村田・大河原・柴田ロータリークラブ合同例会が表蔵王国際ゴルフクラブで開催されることになりました。幹事クラブから、会場では新型コロナの感染予防対策が講じられているとの説明があったのですが、緊急事態宣言下であり、残念でしたが、万全を期して村田ロータリークラブに続いて当クラブも欠席しました。

なお、合同例会直前の会長・幹事懇談会には、私と本木幹事が出席しました。村田ロータリークラブからも大風会長・真壁幹事が出席しています。柴田ロータリークラブ会長は渡辺真康氏、同幹事は小田部岳雄氏です。お二人とも若手企業家の”行け行け、どんどん”型タイプとお見受けしました。

会長・幹事懇談会では、各ロータリークラブから現状報告があり、鈴木ガバナーと村上睦夫ガバナー補佐から訓示を頂きました。鈴木ガバナーから女性会員の拡大が取り上げられています。当クラブの女性会員はわずか2名。その2名とも実力があり、活躍されていますが、なにぶん男性社会の当地です。当クラブの活性化と改革のためには、更なる女性会員の増加が必要と思いました。

2520地区主催の「ロータリー奉仕デー」は無期延期となりました。これが当地区としての新型コロナへの対応姿勢です。

当クラブでは、新しい試みとして、スマホによるオンライン理事会が試みられています。居ながらにして理事会等に参加できる新型コロナ対策です。なお、個人的な意見がスマホで公にされることに躊躇されることがあるかも知れませんが、その場合、会長や幹事等へ個人メールで意見を提出して下さい。会議で風見鶏を決め込むのは、組織を劣化させるだけです。

会長挨拶の中にもあります通り、オンライン理事会を試みております。コロナ禍の混乱の中、夜の例会もままならない状態が続いていますので、夜間例会の可能性を探っておりますが、やはり開催は慎重にということになりそうです。期の初めに少なくとも会員全員がワクチンを打ち終わるまでは自粛を呼びかけたとおりですが、当面継続して様子をうかがっていく必要がありそうです。

オンライン理事会を開催してみたの感想 (本木拓也 私見)

無料で利用できるラインや、メッセージャーなど、オンライン会議のできる環境はこれまでもありましたが、電話屋の立場からいうと、サーバーが海外にあるなど情報漏洩が心配で安心して使用できる無料のサービスがありませんでした。携帯電話3社のスマートホンや従来からの折り畳み携帯電話及び格安電話会社も今月から対応しましたので、プラスメッセージというサービスを利用して運用しています。グループ外には一切情報が洩れませんので安心して利用できます。このサービスは、国際規格であり正式名称は RCS (リッチコミュニケーションサービス) の日本名です。電話番号だけで世界各国の方々にメールや画像、ファイルなども送付できる革新的なサービスです。LINE が先陣を切って類似したフルサービスを展開中ですが、残念なことに日本国内にサーバーがあると偽って、韓国を経由して、中国人技術者にデータが送付されていたことが、過日テレビで報道され大問題になったことは記憶に新しいです。私が個人的に LINE を使用していないのはそういう理由があるからです。通信が未防備ですと、ビッグデータから日本国民の感情が海外からお見通しということになりますので、国力のバロメーターとして利用されていることを考えると恐ろしい世界の中に日本人がおかれているというのがお分かりいただけると思います。中国には「グレートファイアウォール」といって、中国におけるネット検閲システムがあります。現在、中国国民に対して中国共産党や政府にとって都合の悪い情報を閲覧できないようになっています。このシステムは「金盾 (きんじゅん)」と呼ばれ、グレートウォール (万里の長城) をもじって、グレート・ファイアウォール (防火長城) と呼ばれています。中国国内の検閲にとどまらず、日本の情報が筒抜けになっているのが大問題なのです。LINE 社はサーバーの設置場所を移転するといっではみたものの、IP アドレスで通信を傍受してしまえば、日本国内サーバーを移転しても問題の解決にはなりません。

こういう話があります。米中対立が加速し、グーグルや、フェイスブックが計画していた米中間の海底ケーブル敷設を米国政府が変更を指示したのです。米国は、中国との通信の分断を目的に、ロサンゼルスから香港を繋ぐ海底ケーブルを、香港陸揚げを取りやめ、台湾陸揚げとフィリピン陸揚げに変更しました。いざというときにフィリピンもしくは台湾で切断できるようにすれば中国との通信を遮断できるということです。海底ケーブルというとピンとこない方が大勢でしょうが、実は歴史的に150年も前からあった技術です。最初はドーバー海峡から作られたといいますが、今や光ファイバーが主流になり、「1本のケーブルで約1万500枚のDVDを1秒間に送信できる400T (テラ) ビット/秒の伝送が可能」(NEC 海洋システム事業部長の桑原淳氏) といわれています。

このケーブルは2020年から運用されることが報道されましたが現在の状況は報道されておられません。すでに運用されている可能性が高いと思われます。

近々、菅総理大臣が米国を訪問するのも、米国、日本、豪州、インドの4か国で行う対中包囲網での話題と聞き驚いています。もはや弾薬を使用するような戦争はおきません。通信網を遮断するだけで経済は停止してしまうからです。中国の恐れていることはむしろ通信遮断です。日本の経団連も同様です。これは報道されていないので皆さんにお伝えしておきます。

ロータリークラブ内でも通信機器を駆使したオンラインミーティングが今後必要になると思いますが、アプリケーションを何にするか、現在試験的に運用しているプラスメッセージなども含め、再考する時期になってきたような気がします。便利だからと言ってLINEなど、電話帳までシステム側に情報を差し出すようなアプリケーションを使い続けると、落とし穴が待ち構えていることも肝に銘じておいてください。

米山記念奨学会委員会報告

甘糟 仁 会員：アジア友好のために。

近況報告

甘糟 仁 会員：オンラインミーティングが広まって時代も変わりつつあります。
本木幹事のような通信のプロがいると大変助かります。
これもロータリーの強みですね。

櫻井 淳一 会員：奥林会長、本木幹事大変ご苦労様です。
私もLINE を使ってません。
近況は何事もなく、過ごしております。

武者 昌洋 会員：確かに「ライン」は使用しません。
+メッセージは大手キャリアだけですよね？
メーリングリストで十分な気もしますが・・・